

綱掛石神社の環状列石

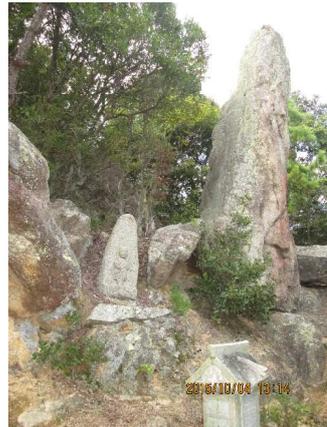
丸谷憲二

1 はじめに

綱掛石神社(岡山市東区東片岡 1695)は研究者以外には、ほとんど知られていない。

『岡山県神社庁』HPには、「環状列石らしい磐境(いわさか)があり古代の祭祀跡があり古代の祭祀跡とみられている。」とある。環状列石(ストーンサークル)について報告する。

2 『岡山県神社誌』HPの綱掛石神社



創建年月日不詳。神武天皇東遷の時、御船の纜を掛けられたという大きな石がある。この石の下に奉斎されている社であって、安仁神社の末社として地方民の崇敬が厚い。周辺には環状列石らしい磐境(いわさか)があり古代の祭祀跡とみられている。この地より高島が一望できる。

旧社格 無格社、

祭神 田心姫命 狭依姫命 瑞津姫命

氏子地域、岡山市西大寺一宮、東片岡の一部(古道里)

3 環状列石(ストーンサークル)の確認

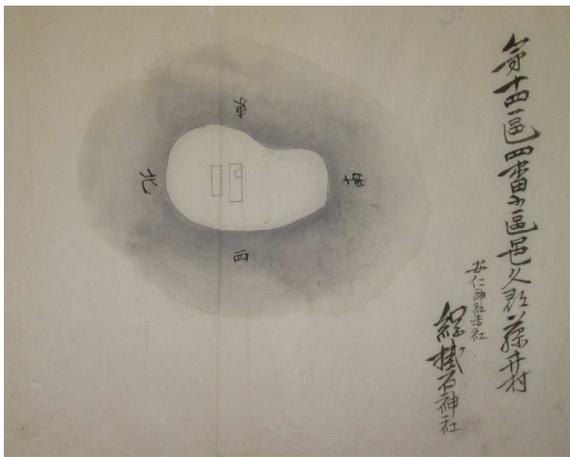
巨岩の前に社殿がある。この岩が神武天皇伝承の綱掛石である。裏側に不動明王が彫されている。野崎豊氏と井上秀男氏が巨岩周囲の雑木を伐採すると、環状列石(ストーンサー

クル)が現れた。祭壇用の四角石があり、人工的な東西南北への石の配置を確認できた。広角レンズがあれば撮影可能である。

野崎豊氏(イワクラ学会)が「磐座(いわくら)」であることを確認し、祭壇用の四角石と人工的な東西南北への石の配置を確認された。



4 安仁神社末社綱掛石神社境内絵図



明治8年頃の境内絵図が、岡山県立記録資料館蔵となっている。地元の知らない情報である。

5 まとめ

『岡山県神社誌』の、「環状列石らしい磐境(いわさか)があり古代の祭祀跡」説は、人工的(東西南北の方位の一致確認)な環状列石であることを確認した。古代祭祀である。

6 用語解説

- ① ストーンサークル(環状列石)とは、石を環状に配置した古代の遺跡。
- ② イワクラとは、縄文時代から古墳時代にかけて形成された巨石遺構。その時代時代の人間が何らかの意図を持ってその目的や役割に合致するよう磐を人工的に組上げあるいは自然の磐そのものを活用したものと定義している。その中でも、特に神社のご神体となっているものを「磐座(いわくら)」「磐境(いわさか)」と呼んでいる。

7 謝辞

平成27年4月8日に近藤孝正氏(山南公民館郷土史を楽しむ会)に案内していただいた。平成27年10月4日が先史古代研究会の先史ウオークであり参加者は10名であった。



8 参考文献

- ① 『岡山県神社誌』昭和58年 岡山県神社庁
- ② 『安仁神社末社綱掛石神社境内絵図』 明治8年頃 岡山県立記録資料館蔵
- ③ 『岡山県社寺所有資料調査報告書1 安仁神社他』平成3年 岡山県教育委員会
- ④ 『国幣中社式内安仁神社御由緒調査書』大正14年 安仁神社社務所
- ⑤ 『備前の古社を訪ねる 綱掛石神社』
<http://blog.goo.ne.jp/junko-f1/e/a4f44c8954ea6963ba628d80abf85665>
- ⑥ 『綱掛石神社』 <http://masakaki.web.fc2.com/newdir/chuugoku/ani/ani2.htm>
- ⑦ 『神武東征の船の「ともづな」を掛けたといわれる綱掛石神社』
http://blogs.yahoo.co.jp/fujii_yamane/4004921.html
- ⑧ 『イワクラ学会』 <http://iwakura.main.jp/definition.html>
- ⑨ 『岡山県神社庁』綱掛石神社
<http://www.okayama-jinjacho.or.jp/cgi-bin/jsearch.cgi?mode=detail&jcode=08041>